

このページは、小・中学生向け
 梅光学院大学子ども学部子ども
 未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
 作っています。

しものせき キッズページ



たかすぎしんさく きへいたい
 「高杉晋作・奇兵隊ゆかりの地」



▲市立東行記念館(2階)では高杉晋作と奇兵隊などの資料を収蔵しています。観覧料=大人300円、大学生200円、小中学生無料。

高杉晋作を知っていますか。今からおよそ150年前、明治維新という世の中のしくみをいっぺんに変えてしまう大きな改革がありました。この明治維新を成し遂げるための原動力になって活躍した若者の一人が、高杉晋作です。今回は下関にある晋作ゆかりの地を巡って、晋作の生涯を紹介します。

高杉晋作の生涯

幕末の志士・高杉晋作は天保10(1839)年に萩で武士の子として生まれました。子どものころは藩の学校や、吉田松陰の松下村塾に入り学びました。満23歳になっ



た晋作は、身分を問わない志願兵による「奇兵隊」という軍隊を作りました。

その後、山口県を四方に囲んだ幕府軍との戦争では、晋作の指揮する奇兵隊などの活躍によって、長州藩は幕府軍に勝利したのでした。晋作はこの戦いの途中から結核が悪化し、慶応3(1867)年、明治維新の直前に、満27歳という若さで亡くなります。吉田地区には、奇兵隊の本拠地が置かれていました。このゆかりから、下関で生涯を閉じた高杉晋作の墓が吉田清水山にあります。

晋作・奇兵隊ゆかりの地

下関市内には晋作・奇兵隊ゆかりの地が多くあります。

◆高杉晋作終焉の地(上新地町)
 この場所が高杉晋作は満27歳という短い一生を終えました。

◆日和山公園(丸山町五丁目)
 昭和11(1936)年に高杉晋作の銅像が建てられました。第二次世界大戦の時、武器を作るために材料が集められる金属供出によって失われました。現在は備前焼の陶像が再建されています。

◆東行庵(大字吉田)
 晋作の墓の近くにあり、晋作の生活を世話した梅処尼(おうの)が、

晋作の墓を守り続けた所です。その他に桜山神社、厳島神社、白石正一郎旧宅の跡、大歳神社、光明寺、青春交響の塔、教法寺、亀山砲台跡、壇之浦砲台跡地があり、さらに市内には中山神社、功山寺、長府博物館といったゆかりの地があります。ぜひ、巡ってみてはいかがでしょうか。

奇兵隊

萩藩から馬関(今の下関)の防衛を任された晋作は、ふるさとを守るろうという考えをもった町民や農民などを集めました。それが「奇兵隊」という軍隊です。その後、奇兵隊は長州藩の運命に左右されながら、さまざまな戦場で活躍しました。

奇兵隊の主な戦い方は、洋式の銃を使用し、洋式の戦い方を多く取り入れていました。さらに、奇兵隊は、日々の厳しい訓練により、兵士一人ひとりが戦術をしつかりと理解していて、戦いに対する意識が非常に高かったといわれています。

このように、高い意識を持ち、日々の厳しい訓練を乗り越えてきたからこそ、新しい時代を目指して厳しい戦いを勝ち抜き、生き抜くことができたと思われま



10月号のイラスト・編集記者(左から)
 西田智則さん、武下侑介さん



▲奇兵隊陣屋跡(大字吉田)。1867年に奇兵隊の訓練や寝泊まりするところとして使われました。



▲高杉晋作終焉の地(上新地町)。下関駅から歩いて10分のところにあります。